



AIPA

Agriculture Innovation Platform in Africa

アフリカ農業デジタル化基盤構築事業の進捗について

令和4年2月10日

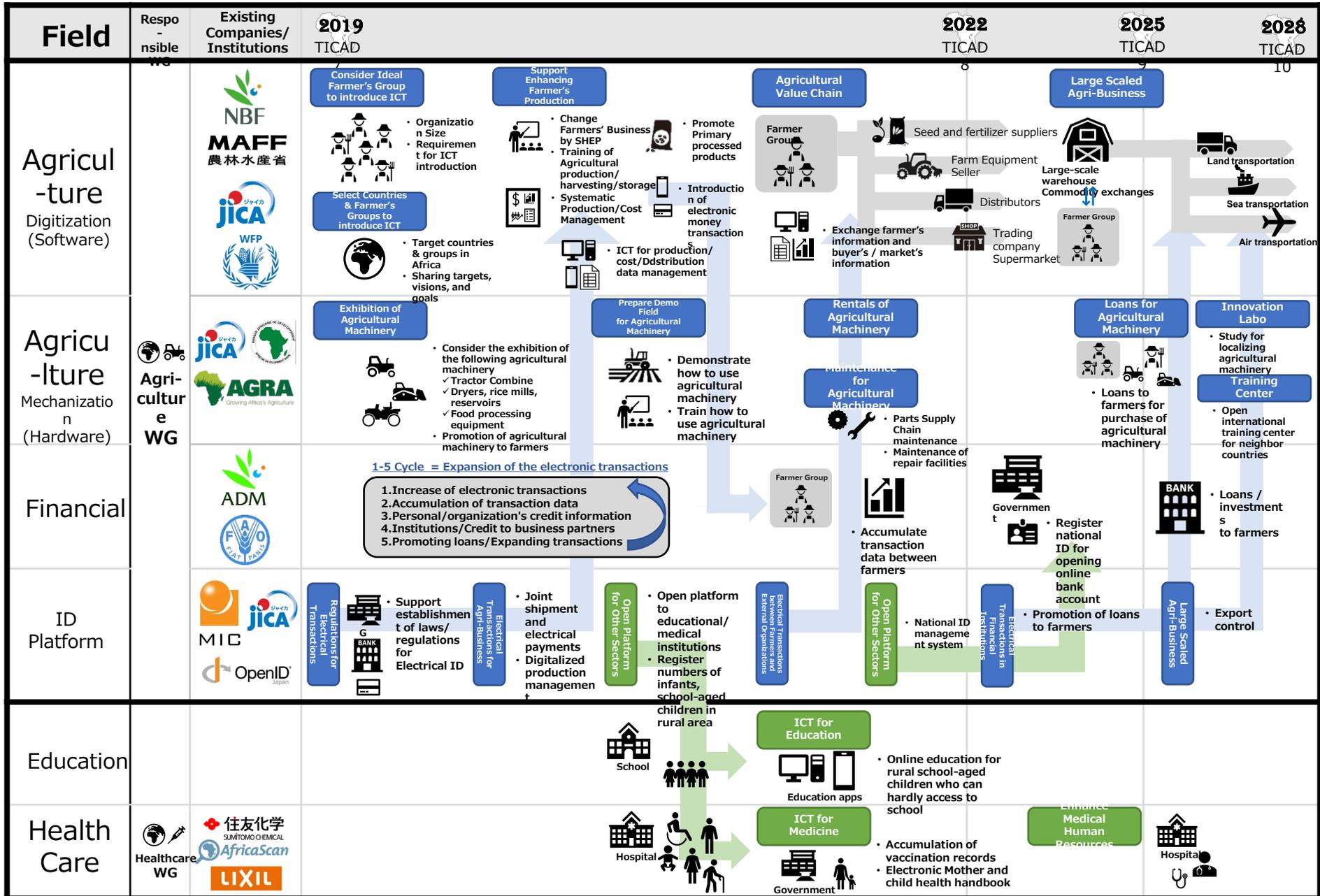
日本植物燃料株式会社

1. 経緯とスケジュール
2. 経過報告
3. SSCコンセプトと候補地
4. 今後の連携について

1. 経緯とスケジュール



African Business Council Agriculture Working Group Roadmap



デジタル化基盤構築における目標

- **アフリカ小規模農家のニーズを満たす**：農家は、買手が本当に買い取って支払ってくれるのか。買手は、農家が本当に約束した作物を用意してくれるのか。相互に不信感が高い現状があります。個々の取引の約束遂行結果をデジタル化で記録することにより信頼できる市場コミュニティを形成します。
- **本邦企業のニーズを満たす**：製品サービス提供に際し、現地ユーザーの反応をダイレクトに把握し、ニーズにあった製品サービスの提供が可能となる。作物買取に際し、生産グループ単位でのトレースを可能とすることで栽培指導などを通じた付加価値化と安定供給を実現する。
- **対象国政策サイドのニーズを満たす**：生産者・買手・資材業者などの個々の売り買い記録をビッグデータとして分析することで、適切なタイミングで適切な施策を実行するための基礎情報を提供する。

日本企業連携における目標

- スマートヴィレッジ開発→**Small Smart Community(SSC)**
- 個別バラバラではなく、相乗効果の出せる日本企業パッケージを用いた農村生活快適化 (**ex.通信・水など⇒通信と余剰電力を用いた取引プラットフォーム⇒取引履歴による与信や保険提供と購買力向上⇒農業資機材導入による生産・収入向上⇒教育や保健など生活環境向上**)
- 通信や水など電力を発電・利用する社会インフラを導入し、同一規格バッテリーでその余剰エネルギーを活用 (**ex.電動自転車・自動車・農機・工具**)
- デジタルIDをKeyとして農家のグループ化と信頼を見える化。高額プロダクトについてはサービスとして利用するシェアリングエコノミー (**デジタルIDとICT導入によりシェアリングが容易になる**)
- ヘルスケア、教育、金融など農村生活快適化に必要な他分野も交えてデジタルIDをKeyとして連携する可能性を検討 (**農業収入が向上するのみで、生活環境の向上が伴わなければ、収入が増えたものは都市に住む不在地主となり、小作だけが農村部に残ることになりかねない**)